

シュッコンカスミソウの生育開花調節に関する研究(第4報)

さし芽苗の定植期の移動が開花期及び採花本数に及ぼす影響

河江正明・祖一範夫・山本保・木村喜久夫*

シュッコンカスミソウのさし芽用土の違いと発根率との関係,さし芽時期と発根率との関係ならびに定植期の移動が開花期に及ぼす影響を明らかにするため,1979~1981年に実験を行った。

1. ミスト繁殖におけるさし芽用土にはパーライト2号が適した。
2. 3月から10月にさし芽した場合,いずれの時期でも発根率は90%以上であった。そして,4~6月のさし芽時期において,最も発根率が高く,良苗が得られた。
3. 3月から10月まで1か月毎にさし芽苗を定植した結果,ブリストルフェアリーを4月に定植したときに採花本数は最も多く,23.2本であった。この時の開花ピークは7~10月と翌年の4~6月になった。
7月以降の定植期においては,定植期が遅れるに従って開花期は遅れ,採花本数も減少した。
パーフェクタの採花本数はブリストルフェアリーに比べて少なく,約1/2であった。
4. 8月~10月に得られる切花は短く,12月以降に得られたものは長くなった。
5. 切花長と着花側枝発生節数との間には高い正の相関が認められた。